

読書のすゝめ

立志館ゼミナールから、この冬おすすめの本を紹介いたします。おもしろそうに思える作品があれば、ぜひ読んでみてください。

アイスクリン強し

高田先生
富中 恵（はたけなか めぐみ） 講談社

時は明治二十三年、維新以来めまぐるしく変わる帝都東京に一軒の西洋菓子店が開店しました。

店の名は「風琴屋」。店主は、旧士族の子ながら事情があつて、築地の外国人居留地で育てられた皆川真次郎という若者です。店の経営を何とか軌道に乗せようと孤軍奮闘の毎日なのですが、そこへ事件が持ち込まれます。持ち込むのは、「若様組」と自称する、これも旧幕臣の家柄でありながら、生きていくために仇敵明治政府の巡査となつた若者たち。真次郎は「若様組」の面々と事件解決に向かいます。

アイスクリン、チョコレイト、シユウクリーム、ゼリケーキ、ワッフルス…表題にも使われている洋菓子の描写もおもしろいのですが、コレラの流行、新聞の隆盛、日清戦争の足音などちよつとした明治史も知ることが出来ます。冬休み、勉強の合間に気楽に読める青春小説。温かい飲み物でも飲みながらどうぞ。

No.6

濱口先生
あさの あつこ 講談社文庫

二〇一三年九月七日、理想とされている都市「No.6」に住む少年の紫苑（シオン）は、十二回目の誕生日をむかえていた。しかし、この日は紫苑の運命を大きく変える一日となつてしまふ……。この日、紫苑は矯正施設（刑務所）から逃げてきた謎の少年・ネズミと出会う。ネズミは怪我を負つていた。そこで、紫苑はネズミの手当てをしてあげたのだが、それが治安局（警察）にばれてしまふ。逃げてきた罪人を手助けしてしまつたのだ。そのため、紫苑は「No.6」の高級住宅街とされている「クロス」から最低の住宅街である「ロスタタウン」へと追い出されてしまつた。紫苑は、身分の低い者たちが集まるこの街で、理想都市といわれている「No.6」の隠された秘密について知つていく……。

現実世界ではありえないSF小説です。一時の間、現実を忘れさせてくれるこの本を、あなたも手にとつてみてください。

チア男子!!

洞淵先生
朝井 リヨウ（あさい りょう） 集英社文庫

晴希は柔道一家に育ち、幼い頃から姉とともに柔道一筋にがんばってきました。しかし、無敗の姉に対して、晴希は自分の実力が劣っていることに悩んでいました。怪我に悩まされたこともあり、大学入学を機に柔道を辞めることを決意します。その時、親友の一馬から男子チアリーディングを一緒にやらないかと誘われ、男子チアリーディング部の結成に向けてメンバー集めを開始します。そして、集まってきた個性的なメンバー達と、全国大会出場を目標に努力していくというストーリーです。

よろこびの歌

田中先生
宮下 奈都（みやした なつ） 実業之日本社文庫

主人公の玲は、音楽が大好きで、音大附属高校を目指していました。しかし、受験に失敗してしまい、普通科に進むものの、何に対しても興味ややる気がわかず、抜け殻のようになってしまします。高校に入学してから、友達も作らず、周りの関係を作つてこなかった玲が、校内合唱コンクールを機に、少しずつ変わっていきます。

皆さんも、何かに対して、興味をもてなかったり、やる気が出なかったりした経験はありませんか。そういう時に、思わぬ転機が訪れ、自分を変えるきっかけとなり、結果として良い方向に進めるということがあると思います。この本がそのきっかけやヒントになれば、と思います。



松本先生

腕貫探偵、残業中

実業之日本社文庫
西澤 保彦（にしざわ やすひこ）

みなさんは「腕貫」を知っていますか？ 辞書には「手首から肘の間を保護し、腕の活動をしやすくするために用いられたもの」と書かれています。簡単にいうと「袖口の汚れを防ぐためのカバー」です。この作品の探偵役は「腕貫」をつけた「公務員」の方です。「市民サーヴィス臨時出張所」で市民の相談に乗り、とつともない推理力で事件を解決していきます。

撮った覚えのないツーショット写真の謎を調査する「夢の通り路」。定年退職直前の教師が引き出した五千万円の使い道を想像する「青い空が落ちる」。など、六編の作品が掲載されています。みなさんはいくつ謎を解決することができますでしょうか？ 私は、何一つ解決することはできませんでした。

ナミヤ雑貨店の奇蹟

名倉先生
東野 圭吾（ひがしの けいご） 角川文庫

ある日、敦也・翔太・幸平の三人は空き巣をし、朝が来るまでとある廃屋で身を隠すことに。しかしその廃屋に一通の手紙が届く。驚いた三人がその手紙を読むと、それは過去からの手紙だった……。

「東野圭吾」と聞くと推理小説のイメージが強いですが、これは時を超えて手紙のやり取りをするという、ファンタジーなお話です。一話完結のエピソードで、各章ごとに視点が変わり、読み進めていくとそれらの話が全て繋がります。その時の、なんともいえない爽快感や感動は本を読む楽しさを改めて教えてくれますよ。読み終わった後はぎつと温かい気持ちになれるはずなので、ぜひ読んでみてくださいね！

マスカレード・ホテル

井上先生
東野 圭吾（ひがしの けいご） 集英社文庫

都内で起きた不可解な連続事件。残された暗号から、次の犯行場所が一流ホテル・ホテルシア東京ということのみ判明する。刑事である新田浩介は、事件を解決するためにホテルマンに化けて潜入捜査することに。そんな彼を教育するのは、女性フロントワーカーの山岸尚美。二人が働くホテルには怪しげな客が次から次にやってくる。そんな中、二人は無事に事件を解決することができるのか？

こうきたか！ と、思つてもなかったところに伏線が数多くあり、それがクライマックスへとつながっていく様は必見です。ぜひ冬休みを利用して読んでみてくださいね。

境遇

山田先生
湊 かなえ（みなと かなえ） 双葉社

主人公は三十六歳のふたりの女性。政治家の夫と幸せな家庭を築き、さらに絵本作家としても注目を浴びる主婦の陽子。それとは対照的に、家族のいない新聞記者の晴美。二人はともに赤ちゃんの時に孤児院で本当の親を知らないまま育てられ、姉妹のように過ごしてきた。ある日、陽子の息子が事件にまきこまれ、「真実」を公表しなければ命の保証はないという手紙が届く。晴美とともに「真実」とは何なのか、奔走して調べ回る中で、絵本のファンだという一人の女性の存在が浮かび上がる。

生まれる境遇は選べなくても、その後の人生は自分の意思で選ぶことができるということが伝わってきます。境遇を言い訳にせず、自分の納得のいくように過ごす方法を考えながら読むとおもしろいと思います。

ミッキーマウスの憂鬱

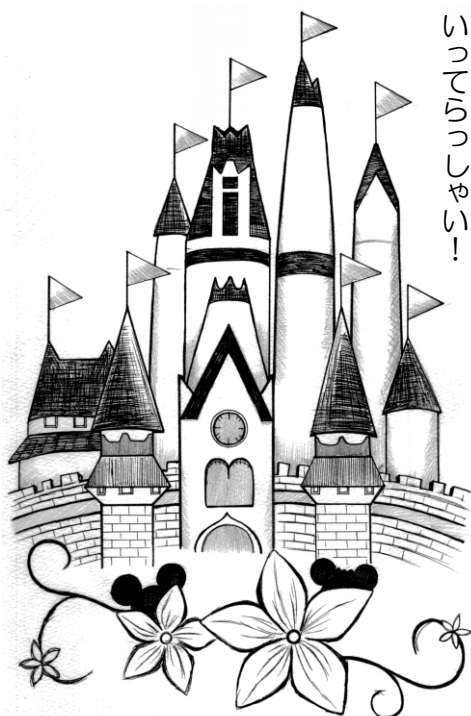
松岡 圭祐 (まつおか けいすけ)

桐先生 新潮文庫

みなさんは、夢と魔法の王国・ティズニールランドに行ったことがありますか？ この作品の舞台は、まさにそのテーマパークなのです。

後藤大輔は、近年まれに見る勘違い男。しかし、その超ポジティブ思考が評価されたのか、なんとティズニールランドに準社員として採用されます。夢の国を支える舞台裏は、一体どんな風になっているのでしょうか？ 皆さんが一度は耳にしたことがある都市伝説にも、触れられているかも……？

最後まで読むと「この物語はフィクションです」と書かれています。そう、これは作者・松岡圭祐の綿密な取材によって生み出された、作り話。一体どこまでが本当で、どこからがフィクションなのか……。松岡圭祐による「夢と魔法の王国」へ、さあ、いつてらっしゃい！



蒼き信長

安部 龍太郎 (あべ りゅうたろう)

阪口先生 新潮文庫

今回の本のタイトルにもある、織田信長は私にとつてのヒーローの中の一人でした。しかし、この本を読むと、これまで以上に織田信長という人物に魅力を感じるようになりました。しかも、まだまだ蒼い(若い)頃の信長です。

信長の「強さ」や「カリスマ性」について描かれた本はたくさんありますが、この本はそれだけではありません。描かれているのは信長の「弱さ」や「人間性」です。

織田家の身内同士の争いや、近隣勢力の侵攻など、あらゆる火の粉がふりかかり、信長は非常に苦しみます。負けることだつて珍しくありません。しかし、この時期の努力の積み重ねが後の信長を育てたといつても過言ではないと思います。逆境に何度も立ち向かう姿に私は魅了されました。ぜひこの本を読んで、あきらめないこと、前向きに取り組んでいくことの大切さを感じてくだわい。

和菓子のアン

坂木 司 (さかき つかさ)

高木先生 光文社文庫

デパ地下の和菓子屋さんで働き始めた梅本杏子。株にはまっている店長、イケメンで乙女や元ヤンの同僚など個性的な人々に囲まれて忙しい日が始まる。そんな中、杏子はお客さんたちの謎の行動に気が付く。彼らの行動に「なぜ？」という目を向けると見えるものがあつた。

この本を読むと和菓子のことを知りたくなること間違いなし。そして、人の行動の裏には何かしらの思いがあると分らせてくれる一冊です。

ぼくは明日、昨日のきみとデートする

七月 隆文 (ななつき たかふみ)

池本先生 宝島社文庫

京都の美大に通う南山高寿は、大学までの電車の中で、唐突に恋に落ちてしまった。高寿は、意を決して彼女に声をかけ、何とか交際にこぎつけた。気配り上手で、何でもテキパキこなす完璧な彼女。しかし、携帯を持っておらず、連絡手段は公衆電話。門限午前0時、とんだか不思議な彼女。だんだん高寿は彼女の言動にも疑問を持ち始める。「手をつなごう」「これは、また作つてね」。そんな些細な一言に彼女が涙した訳とは……。

彼女の秘密が明かされる時、相手を思いやる心の大切さを感じるこのできる一冊です。きつと「今」隣に大切な人がいることの喜びを心からかみしめることができると思いますよ。静かな空間の中で、じっくりと本と向き合つて読むことをおすすめします。

二十四の瞳

壺井 栄 (つばい さかえ)

八百先生 新潮文庫

昭和三年四月四日、瀬戸内海へりの一寒村にある分教場に、若い女の先生が赴任してきます。その名は大石先生。この物語は、大石先生と十二人の教え子との愛情あふれる心の交流を中心に展開します。貧しいために幼い時から悲惨な運命に翻弄される子供たちに、大石先生は優しい眼差しを注ぎ、子供たちの中にある美しいものをとことん伸ばしていこうと奮闘します。子供たちもそんな大石先生をとても慕っていきます。しかし、やがて戦争が起これり、この子供たちの運命を大きく変えてしまいます。その後、大石先生との再会を果たしますが……。

作品の根底にあるテーマは、戦争批判ですが、むき出しにした激しいものではなく、戦争という暗い現実をやわらかくほぐして描かれています。だからこそ、感動的で魅力的な作品となつています。

幸福な食卓

瀬尾 まいこ (せお まいこ)

吉美先生 講談社文庫

みなさんの家には、何かルールがありますか？ 私が子どもだった頃は、我が家には、とにかく「食事は全員揃つて！」というルールがありました。今ではうまくみんなの時間が合うことは少なくなりましたが、それでも食事の時間は大切な時間だと感じます。

今回紹介する「幸福な食卓」に出てくる家族も、朝食は全員揃つて食べます。何か大事な話がある時は、みな朝食の時間に話します。食事をしながら、人とコミュニケーションをとること、実はとても大事なこともあるのかも知れません。家族でも、友達でも、恋人でも。みなさんはこれから色々な人と関わり、色々な話をしながら成長していきま

す。何かに行き詰まつたり、一人では答えが見出せなくなつたりした時は、人とゆつくり食事をしながら、大切な話をしてみてはどうですか？

フランコのむこうで

星 新一 (ほし しんいち)

久常先生 新潮文庫

その日は朝起きた時から、何かが起こりそうな予感がしていた。そんなとき、ぼくはもうひとりのぼくに会った。鏡のむこうから抜け出てきたようなぼくにそっくりの顔。

信じてもらえるかな。ぼくは目に見えない糸で引っぱられるように男の子のあとをつけていった。そして、不思議な夢の国に入り込み、色々な人の夢の中を旅することに。夢には、その人たちの願望や希望、時には不満や悲しみが表れています。そんな夢の中で、その人たちの歩んできた生き方にふれた「ぼく」は、少しずつ「優しさ」や「勇氣」を持ち、成長していきます。夢の中って、何でもできる気がしますよね。楽しかったり、うれしかったり。嫌なことがあれば、それが出てきてしまうこともあります。でも、実はその夢が、自分を変えるヒントになっているのかも知れません。

この物語を読むと、「ぼく」がその勇氣と元気を与えてくれるはず。そして最後は、とっても優しい気持ちになれる本だと思

